



D

SANtricity commands

NetApp
June 17, 2025

目次

D	1
同期ミラーリングを無効化する - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	1
コンテキスト (Context)	1
構文	1
パラメータ	1
最小ファームウェアレベル	1
非同期ミラーリングを無効化 - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	2
コンテキスト (Context)	2
構文	2
パラメータ	2
最小ファームウェアレベル	2
非同期ミラーグループの削除 - SANtricity CLI	2
サポートされているアレイ	2
ロール	2
コンテキスト (Context)	2
構文	2
パラメータ	3
最小ファームウェアレベル	3
監査ログレコードの削除 - SANtricity CLI	3
サポートされているアレイ	3
ロール	3
構文	4
パラメータ	4
例	4
最小ファームウェアレベル	4
証明書の削除 - SANtricity CLI	5
サポートされているアレイ	5
構文	5
パラメータ	5
最小ファームウェアレベル	5
整合性グループのスナップショットイメージの削除 - SANtricity CLI	5
サポートされているアレイ	5
ロール	5
構文	5
パラメータ	6

注：	6
最小ファームウェアレベル	7
整合性グループの削除 - SANtricity CLI	7
サポートされているアレイ	7
ロール	7
コンテキスト (Context)	7
構文	7
パラメータ	7
最小ファームウェアレベル	8
インストールされたルート/中間 CA 証明書を削除する - SANtricity CLI	8
サポートされているアレイ	8
ロール	8
構文	8
パラメータ	8
例	8
最小ファームウェアレベル	9
ディスクプールの削除 - SANtricity CLI	9
サポートされているアレイ	9
ロール	9
コンテキスト (Context)	9
構文	9
パラメータ	9
注：	10
最小ファームウェアレベル	10
メールアラートの受信者を削除する - SANtricity CLI	10
サポートされているアレイ	10
ロール	10
構文	10
パラメータ	11
例	11
最小ファームウェアレベル	11
ホストの削除 - SANtricity CLI	11
サポートされているアレイ	11
ロール	11
構文	11
パラメータ	11
注：	12
最小ファームウェアレベル	12
ホストグループの削除 - SANtricity CLI	12
サポートされているアレイ	12
ロール	12

コンテキスト (Context)	12
構文	12
パラメータ	12
注：	13
最小ファームウェアレベル	13
ホストポートの削除 - SANtricity CLI	13
サポートされているアレイ	13
ロール	13
コンテキスト (Context)	13
構文	13
パラメータ	14
注：	14
最小ファームウェアレベル	14
イニシエータの削除 - SANtricity CLI	14
サポートされているアレイ	14
ロール	14
コンテキスト (Context)	14
構文	14
パラメータ	15
最小ファームウェアレベル	15
iSCSIイニシエーターの削除 - SANtricity CLI	15
サポートされているアレイ	15
ロール	15
構文	15
パラメータ	15
最小ファームウェアレベル	16
整合性グループのスナップショットボリュームの削除 - SANtricity CLI	16
サポートされているアレイ	16
ロール	16
構文	16
パラメータ	16
最小ファームウェアレベル	17
スナップショットグループの削除 - SANtricity CLI	17
サポートされているアレイ	17
ロール	17
コンテキスト (Context)	17
構文	17
パラメータ	17
注：	18
最小ファームウェアレベル	18
スナップショットイメージの削除 - SANtricity CLI	18

サポートされているアレイ	18
ロール	18
構文	18
パラメータ	19
注：	20
最小ファームウェアレベル	20
スナップショットボリュームの削除 - SANtricity CLI	20
サポートされているアレイ	20
ロール	21
コンテキスト (Context)	21
構文	21
パラメータ	21
最小ファームウェアレベル	21
SNMPコミュニティの登録解除 - SANtricity CLI	21
サポートされているアレイ	21
ロール	22
構文	22
パラメータ	22
最小ファームウェアレベル	22
SNMPトラップ送信先の登録解除 - SANtricity CLI	22
サポートされているアレイ	22
ロール	22
構文	22
パラメータ	22
最小ファームウェアレベル	23
SNMPv3 USM ユーザーの登録解除 - SANtricity CLI	23
サポートされているアレイ	23
ロール	23
構文	23
パラメータ	23
最小ファームウェアレベル	24
SSDキャッシュの削除 - SANtricity CLI	24
サポートされているアレイ	24
ロール	24
構文	24
パラメータ	24
最小ファームウェアレベル	24
ストレージアレイディレクトリサーバーの削除 - SANtricity CLI	24
サポートされているアレイ	25
ロール	25
構文	25

パラメータ	25
例	25
最小ファームウェアレベル	25
インストールされた外部キー管理証明書を削除する - SANtricity CLI	26
サポートされているアレイ	26
ロール	26
コンテキスト (Context)	26
構文	26
パラメータ	26
例	26
最小ファームウェアレベル	26
ストレージアレイのログインバナーを削除する - SANtricity CLI	27
サポートされているアレイ	27
ロール	27
構文	27
パラメータ	27
最小ファームウェアレベル	27
ストレージアレイのSyslog設定を削除する - SANtricity CLI	27
サポートされているアレイ	27
ロール	27
構文	27
パラメータ	28
最小ファームウェアレベル	28
インストールされた信頼された CA 証明書を削除する - SANtricity CLI	28
サポートされているアレイ	28
ロール	28
構文	28
パラメータ	28
例	29
最小ファームウェアレベル	29
Syslogサーバーの削除 - SANtricity CLI	29
サポートされているアレイ	29
ロール	29
構文	29
パラメータ	30
例	30
最小ファームウェアレベル	30
ディスクプールからボリュームを削除する - SANtricity CLI	30
サポートされているアレイ	30
ロール	30
コンテキスト (Context)	30

構文	31
パラメータ	31
注：	32
最小ファームウェアレベル	32
ボリュームの削除 - SANtricity CLI	32
サポートされているアレイ	32
ロール	32
コンテキスト (Context)	32
構文	32
パラメータ	32
注：	33
最小ファームウェアレベル	34
ボリュームグループの削除 - SANtricity CLI	34
サポートされているアレイ	34
ロール	34
コンテキスト (Context)	34
構文	34
パラメータ	34
最小ファームウェアレベル	34
非同期ミラーグループの接続をテストする - SANtricity CLI	35
サポートされているアレイ	35
ロール	35
構文	35
パラメータ	35
最小ファームウェアレベル	36
コントローラのiSCSIホストケーブルの診断 - SANtricity CLI	36
サポートされているアレイ	36
ロール	36
コンテキスト (Context)	37
構文	37
パラメータ	37
iSCSIホストポートラベルの特定	37
注：	38
最小ファームウェアレベル	39
コントローラの診断 - SANtricity CLI	39
サポートされているアレイ	39
ロール	39
コンテキスト (Context)	39
構文	39
パラメータ	39
注：	40

最小ファームウェアレベル	41
同期ミラーリングの診断 - SANtricity CLI	41
サポートされているアレイ	41
ロール	41
コンテキスト (Context)	41
構文	41
パラメータ	41
最小ファームウェアレベル	42
外部セキュリティキー管理を無効にする - SANtricity CLI	42
サポートされているアレイ	42
ロール	42
構文	42
コンテキスト (Context)	43
パラメータ	43
注：	43
最小ファームウェアレベル	44
ストレージアレイ機能を無効にする - SANtricity CLI	44
サポートされているアレイ	44
ロール	44
コンテキスト (Context)	44
構文	44
パラメータ	44
最小ファームウェアレベル	44
サーバー署名証明書のインストール - SANtricity CLI	45
サポートされているアレイ	45
ロール	45
コンテキスト (Context)	45
構文	45
パラメータ	45
例	45
最小ファームウェアレベル	46
ルート/中間 CA 証明書のインストール - SANtricity CLI	46
サポートされているアレイ	46
ロール	46
コンテキスト (Context)	46
構文	46
パラメータ	46
例	47
最小ファームウェアレベル	47
信頼できる CA 証明書をインストールする - SANtricity CLI	47
サポートされているアレイ	47

ロール	47
コンテキスト (Context)	48
構文	48
パラメータ	48
例	48
最小ファームウェアレベル	48
ドライブファームウェアのダウンロード - SANtricity CLI	48
サポートされているアレイ	49
ロール	49
コンテキスト (Context)	49
構文	49
パラメータ	49
注：	50
最小ファームウェアレベル	51
ストレージアレイドライブファームウェアのダウンロード - SANtricity CLI	51
サポートされているアレイ	51
ロール	51
構文	52
パラメータ	52
注：	52
最小ファームウェアレベル	52
ストレージアレイファームウェア/NVSRAMのダウンロード - SANtricity CLI	53
サポートされているアレイ	53
ロール	53
コンテキスト (Context)	53
構文	53
パラメータ	53
最小ファームウェアレベル	55
ストレージアレイの外部キー管理証明書をインストールする - SANtricity CLI	56
サポートされているアレイ	56
ロール	56
コンテキスト (Context)	56
構文	56
パラメータ	56
例	56
最小ファームウェアレベル	57
ストレージアレイNVSRAMのダウンロード - SANtricity CLI	57
サポートされているアレイ	57
ロール	57
構文	57
パラメータ	57

最小ファームウェアレベル	58
ダウンロードトレイの構成設定 - SANtricity CLI	58
サポートされているアレイ	58
ロール	58
構文	58
パラメータ	59
注：	59
最小ファームウェアレベル	59
環境カードファームウェアのダウンロード - SANtricity CLI	59
サポートされているアレイ	59
ロール	59
コンテキスト (Context)	60
構文	60
パラメータ	60
注：	61
最小ファームウェアレベル	61

D

同期ミラーリングを無効化する - SANtricity CLI

`deactivate storageArray feature`'コマンドは'同期ミラーリング機能を非アクティブ化し'ミラー・リポジトリ・ボリュームを逆アセンブルし'セカンダリ・ボリュームのコントローラ所有者を解放します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

セカンダリボリューム専用のコントローラホストポートをホストのデータ転送に使用できます。



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
deactivate storageArray feature=syncMirror
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

非同期ミラーリングを無効化 - SANtricity CLI

「これには、ストレージの非アクティブ化機能」を使用します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

非同期ミラーリング機能を非アクティブ化する前に、既存のすべての非同期ミラーグループまたは非同期ミラーペアを、ローカルストレージアレイとリモートストレージアレイから削除する必要があります。

構文

```
deactivate storageArray feature=asyncRemoteMirror
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.84

非同期ミラーグループの削除 - SANtricity CLI

DELETE asyncMirrorGroupコマンドは、ローカルストレージアレイとリモートストレージアレイから1つ以上の非同期ミラーグループを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

非同期ミラーグループを削除するには、事前に空にしておく必要があります。このコマンドを使用する前に、非同期ミラーグループから非同期ミラーペアをすべて削除する必要があります。

構文

```

delete (allAsyncMirrorGroups |
asyncMirrorGroup[<em>"asyncMirrorGroupName"</em> |
asyncMirrorGroups [<em>"asyncMirrorGroupName_1" ...
"asyncMirrorGroupName_n"</em>])

```

パラメータ

パラメータ	説明
「allAsyncMirrorGroups」を参照してください	このパラメータは、ローカルストレージアレイとリモートストレージアレイからすべての非同期ミラーグループを削除する場合に使用します。
「asyncMirrorGroup」	削除する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「asyncMirrorGroups」を参照してください	削除する複数の非同期ミラーグループの名前。以下のルールを使用して、非同期ミラーグループの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 名前はそれぞれスペースで区切ります。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

監査ログレコードの削除 - SANtricity CLI

delete auditLogコマンドは監査ログ内のレコードの一部またはすべてを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
delete auditLog (all | (endRecord=<em>timestamp</em> |  
endDate=<em>date</em>) |  
(retentionCount=<em>integer</em>))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「すべて」	すべての監査ログレコードを削除できます。
「endRecord」	最も古いレコードから始めて、最後に削除するレコードを指定できます。この値は、最後の監査ログレコードのタイムスタンプを表す整数値です。
「endDate」	最も古いレコードから始めて、削除する終了日を指定できます。日付の入力形式は、クライアントタイムゾーンでMM : DD : YYです。  指定した日付を含む監査ログレコード が削除されます。
「retentionCount」	最新の監査ログレコードを保持する数を指定できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete auditLog all;"  
  
SMcli -n Array1 -c "delete auditLog endRecord=1493070393313;"  
  
SMcli -n Array1 -c "delete auditLog endDate=04:30:17;"  
  
SMcli -n Array1 -c "delete auditLog retentionCount=1000;"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

証明書の削除 - SANtricity CLI

Delete certificatesコマンドを使用すると、CLIパッケージの信頼ストアから証明書を削除できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、EF600およびEF300ストレージアレイを環境します。

構文

```
delete localCertificate all | alias <em>alias</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「alias」	ユーザ定義のエイリアスを使用して証明書を指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.60

整合性グループのスナップショットイメージの削除 - SANtricity CLI

DELETE cgSnapImage consistencyGroupコマンドは、整合性グループのSnapshotイメージを削除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```

delete cgSnapImage consistencyGroup=<em>"consistencyGroupName"</em>
[deleteCount=<em>numberOfSnapImages</em>
[retainCount=<em>numberOfSnapImages</em>
[ignoreSnapVolume=(TRUE | FALSE) ]

```

パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroup」	Snapshotイメージの削除元の整合性グループの名前。整合性グループ名は二重引用符 ("") で囲みます。
「deleteCount」を指定します	整合性グループから削除するSnapshotイメージの数。整数値を使用します。 このパラメータは、最も古いSnapshotイメージから順に、指定した数に達するまでSnapshotイメージを削除します。
「RETAINCOUNT」	整合性グループに保持するSnapshotイメージの数。整数値を使用します。 このパラメータは、最新のSnapshotイメージを整合性グループ内に保持します。
「ignoreSnapVolume」を参照してください	関連付けられている整合性グループのSnapshotボリュームを保持するか削除するかを指定します。このパラメータは、整合性グループのSnapshotイメージが整合性グループのSnapshotボリュームに関連付けられている場合にのみ適用されます。スナップショット・ボリュームを保持するには'このパラメータをTRUEに設定しますスナップショット・ボリュームを削除するには'このパラメータをFALSEに設定しますデフォルト値は'FALSE'です

注：

整合性グループのすべての関連するメンバーボリュームについてSnapshotイメージを削除できない場合は、処理が失敗し、Snapshotイメージはどれも削除されません。

整合性グループのSnapshotボリュームに関連付けられている整合性グループのSnapshotイメージを削除すると、整合性グループのSnapshotボリューム内の対応するSnapshotボリュームメンバーが停止の状態に移行します。停止状態のSnapshotボリュームメンバーと、削除されたSnapshotイメージのSnapshotグループの関係は削除されました。ただし、停止状態のSnapshotボリュームメンバーと、対応する整合性グループのSnapshotボリュームとの関係は保持されます。

最小ファームウェアレベル

7.83

整合性グループの削除 - SANtricity CLI

「delete consistencyGroup」コマンドは、Snapshot整合性グループを削除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、次の2つの方法で機能します。

- 整合性グループと、整合性グループに含まれているリポジトリボリュームの両方を削除できます。
- 整合性グループのみを削除し、整合性グループに含まれているリポジトリボリュームはそのまま残すことができます。

構文

```
delete consistencyGroup [<em>"consistencyGroupName"</em>]  
[deleteRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroup」	削除するSnapshot整合性グループの名前。Snapshot整合性グループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
deleteRepositoryMembersを指定します	リポジトリボリュームを削除するか保持するかの設定。リポジトリ・ボリュームを削除するには'このパラメータをTRUEに設定しますリポジトリボリュームを保持するには'このパラメータをFALSEに設定しますデフォルト設定は'FALSE'です

最小ファームウェアレベル

7.83

インストールされたルート/中間 CA 証明書を削除する - SANtricity CLI

`delete controller caCertificate` コマンドはインストールされているルート/中間CA証明書を指定されたコントローラから削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
delete controller [(a|b)] caCertificate aliases="alias1" ... "aliasN"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	署名済み証明書を削除するコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。
「別名」	削除する1つ以上のCA証明書をエイリアス名を使用して指定するか、またはすべての証明書を指定できます。エイリアスは、証明書を削除するコントローラから指定する必要があります。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete controller[a] caCertificate aliases= ("myAlias"  
"anotherAlias");"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ディスクプールの削除 - SANtricity CLI

delete diskPoolコマンドは'ディスク・プールを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージアレイ構成への損傷の可能性--このコマンドを実行するとすぐに、ディスクプール内のすべてのデータが失われます。

使用しているストレージ管理ソフトウェアのバージョンに応じて、このコマンドはディスクプール内のすべてのボリュームも削除します。ボリュームの自動削除をサポートしていないバージョンのストレージ管理ソフトウェアを使用している場合は、ディスクプールとボリュームを強制的に削除できます。

構文

```
delete diskPool [<em>diskPoolName</em>]  
[force=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPoolName」	削除するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ ([]) で囲みます。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、名前を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「フォース」	ストレージ管理ソフトウェアがディスクプール内のボリュームの自動削除をサポートしていない場合は、このパラメータによってボリュームを強制的に削除します。ディスク・プールとそれに含まれるボリュームを強制的に削除するにはこのパラメータをTRUEに設定しますデフォルトは「FALSE」です。

注：

ディスクプール名は一意である必要があります。ユーザラベルには、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

7.83

メールアラートの受信者を削除する - **SANtricity CLI**

「delete emailAlert」 コマンドは、電子メールアラート設定から受信者の電子メールアドレスを削除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
delete emailAlert
  (allEmailRecipients |
   emailRecipients [<em>emailAddress1 ... emailAddressN</em>])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allEmailRecipients」を参照してください	すべてのEメール受信者を削除できます。
「Eメール受信者」	受信者アドレスを削除できます。Eメールアドレスは角かっこ ([])で囲みます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete emailAlert allEmailRecipients;"  
  
SMcli -n Array1 -c "delete emailAlert emailRecipients  
["person1@email.domain.com" "person3@email.domain.com"];"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ホストの削除 - SANtricity CLI

delete hostコマンドは1つまたは複数のホストを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
delete host [<em>hostName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
ホスト	削除するホストの名前。ホスト名は角かっこ ([]) で囲みます。ホスト名に特殊文字が含まれている場合は、ホスト名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

ホストとは、ストレージアレイに接続されていて、ホスト上のホストポート経由でストレージアレイ上のボリュームにアクセスするコンピュータのことです。

最小ファームウェアレベル

5.20

ホストグループの削除 - SANtricity CLI

delete hostGroupコマンドは'ホスト・グループを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージアレイ構成への損傷の可能性-このコマンドは、ホストグループ内のすべてのホスト定義を削除します。

構文

```
delete hostGroup [<em>hostGroupName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「hostGroup」と入力します	削除するホストグループの名前。ホストグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。ホストグループ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ホストグループ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

ホストグループはオプションのトポロジ要素であり、同じボリュームへのアクセスを共有する一連のホストです。ホストグループは論理エンティティです。

最小ファームウェアレベル

5.20

ホストポートの削除 - SANtricity CLI

delete HostPortコマンドは'ホスト・ポートの識別情報を削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

IDは、コントローラへの物理ホストポートを表すソフトウェア値です。識別情報を削除すると、コントローラでは、ホストポートからの指示やデータが認識されなくなります。



iSCSI環境では、ホストポートがイニシエータとみなされるため、このコマンドは機能しません。代わりに'delete iscsilInitiatorコマンドを使用しますを参照してください [iSCSIイニシエータの削除](#)。

構文

```
delete hostPort [hostPortName]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ホストポート」	削除するホストポートの名前。ホストポートの名前は角かっこ ([]) で囲みます。ホストポート名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

ホストポートは、ホストコンピュータ内にあるホストアダプタ上の物理接続です。ホストポートは、ストレージアレイ内のボリュームへのホストアクセスを提供します。

最小ファームウェアレベル

5.20

イニシエータの削除 - SANtricity CLI

delete initiatorコマンドは'イニシエータ・オブジェクトを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止されたを置き換えます [iSCSIイニシエータの削除](#) コマンドを実行します



このコマンドは、iSCSI、iSER、NVMe over RoCE、NVMe over InfiniBand、NVMe over Fibre Channelに対してのみ使用できます。

構文

```
delete initiator (["initiatorName"] | <"initiatorQualifiedName">)
```

パラメータ

パラメータ	説明
イニシエータ	削除するイニシエータIDを指定できます。名前は二重引用符(")で囲みますさらに、値がユーザラベルである場合は名前を角かっこ (<>) で、値が修飾名 (iqn やnqnなど) である場合は名前を山かっこ (<>) で囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

8.41

iSCSIイニシエーターの削除 - SANtricity CLI

delete iscsilInitiatorコマンドは特定のiSCSIイニシエータ・オブジェクトを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [イニシエータの削除](#) コマンドを実行します

構文

```
delete iscsiInitiator (<"iscsiID"> | ["name"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「iscsilInitiator」と入力します	<p>削除するiSCSIイニシエータの識別子。iSCSIイニシエータの識別子には、iSCSI IDまたは一意の名前を使用できます。</p> <p>iSCSI IDは、二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。</p> <p>名前は二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p>

最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

整合性グループのスナップショットボリュームの削除 - SANtricity CLI

「delete sgSnapVolume」コマンドは、整合グループのSnapshotボリュームを削除します。必要に応じて、リポジトリメンバーを削除することもできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
delete cgSnapVolume [ "<em>snapVolumeName</em>" ]
[deleteRepositoryMembers=(TRUE | FALSE) ]
```

パラメータ

パラメータ	説明
cgSnapVolume	削除する整合性グループのSnapshotボリュームの名前。整合性グループのSnapshotボリュームの名前は、二重引用符（" "）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
deleteRepositoryMembersを指定します	メンバー ボリュームを保存または削除するパラメータ。メンバー ボリュームを保存するには、このパラメータを「true」に設定します。メンバー ボリュームを削除する場合は、このパラメータを「FALSE」に設定します。デフォルト値は「true」です。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットグループの削除 - SANtricity CLI

delete snapGroupコマンドは'スナップショット・グループ全体と'オプションで関連するリポジトリ・ボリュームを示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージアレイ構成への損傷の可能性--このコマンドを実行するとすぐに'スナップショット・グループ内 のすべてのデータが失われます

構文

```
delete snapGroup [ "<em>snapGroupName</em>" ]
[deleteRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	削除するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符（" "）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
deleteRepositoryMembersを指定します	リポジトリボリュームを削除または保存するパラメータ。リポジトリ・ボリュームを削除するには'このパラメータをTRUEに設定します'リポジトリボリュームを保存するには'このパラメータをFALSEに設定します'デフォルト値は'FALSE'です

注：

ユーザラベルには、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

Snapshotグループは、空の場合、またはSnapshotイメージが含まれている場合に削除できます。Snapshotグループ内のすべてのSnapshotイメージが、Snapshotグループと一緒に削除されます。Snapshotグループ内の既存のSnapshotイメージに関連付けられているSnapshotボリュームがある場合は、各Snapshotボリュームが停止され、Snapshotイメージとの関連付けが解除されます。Snapshotグループを削除すると、関連付けられているリポジトリボリュームも削除されます。デフォルトでは、リポジトリボリューム内のすべてのメンバー・ボリュームが、未使用でマッピングされていない標準ボリュームとして保持されます。メンバー・ボリュームを削除するには'deleteRepositoryMembers'パラメータをTRUEに設定するか'このパラメータを使用しないでくださいメンバー・ボリュームを保持するには'deleteRepositoryMembers'パラメータを'FALSE'に設定します

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットイメージの削除 - SANtricity CLI

「delete snapImage」コマンドは、1つ以上のSnapshotイメージをSnapshotグループから削除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```

delete snapImage (snapGroup="snapGroupName" |
snapGroups="<em>snapGroupName1"
... "snapGroupNamen</em>" )
[deleteCount=numberOfSnapImages]
[retainCount=numberOfSnapImages]
[ignoreSnapVolume=(TRUE | FALSE) ]
[snapImageID=OLDEST]

```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	削除するSnapshotイメージを含むSnapshotグループの名前。Snapshotグループの名前は二重引用符 ("") で囲みます。
「snapGroups」を参照してください	削除するSnapshotイメージを含む複数のSnapshotグループの名前。以下のルールを使用して、Snapshotグループの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> すべての名前をかっこで囲みます。 各名前は二重引用符 ("") で囲みます。 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「deleteCount」を指定します	Snapshotグループから削除するSnapshotイメージの数。整数値を使用します。 このパラメータは、最も古いSnapshotイメージから順に、指定した数に達するまでSnapshotイメージを削除します。 Snapshotグループ内のすべてのSnapshotイメージの実際の数より大きい数字を入力すると、すべてのSnapshotイメージが削除されます。Snapshotグループは空のままでです。
「RETAINCOUNT」	Snapshotグループに保持するSnapshotイメージの数。整数値を使用します。 このパラメータは、最新のSnapshotイメージをSnapshotグループ内に保持し、古いSnapshotイメージを削除します。 Snapshotグループ内の既存のSnapshotイメージの数が、入力した数より少ない場合は、Snapshotイメージは削除されません。

パラメータ	説明
「ignoreSnapVolume」を参照してください	<p>Snapshotボリュームに関連付けられているSnapshotイメージを削除しない場合は、このパラメータを使用します。次のいずれかの値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • `true` - Snapshotイメージに関連付けられたSnapshotボリュームがある場合でもこの値を使用してSnapshotイメージを削除します • FALSE - Snapshotボリュームが関連付けられているときにSnapshotイメージを保持する場合に使用します。 <p>デフォルト値は「true」です。</p>
「snapImageID」	「snapImageID」パラメータは、「oldest」オプションのみを受け入れます。このパラメータは、最も古いSnapshotイメージを削除します。

注：

Snapshotグループのリポジトリボリュームから、最も古いSnapshotイメージを削除できます。削除するSnapshotイメージの定義がシステムから削除されます。Snapshotグループのリポジトリボリュームから削除するSnapshotイメージによって占有されていたスペースは解放され、Snapshotグループ内で再利用可能になります。

SnapGroup'パラメータまたはsnapGroups'パラメータとともにその他のパラメータを使用しない場合'デフォルトでは'最も古いスナップショット・イメージが削除されます

Snapshotイメージが削除されると、そのSnapshotイメージ用に存在するSnapshotボリュームは停止状態に移行します。

このコマンドは、コントローラがロックダウンモードのときは実行されません。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームの削除 - **SANtricity CLI**

delete snapVolumeコマンドは'スナップショット・ボリュームを削除し'オプションで'関連づけられているスナップショット・リポジトリ・メンバーを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



オンラインボリュームコピーに関するSnapshotイメージには、このコマンドは使用できません。

構文

```
delete snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"]
[deleteRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	削除するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
deleteRepositoryMembersを指定します	リポジトリメンバーを保存または削除するパラメータ。リポジトリメンバーを保存するにはこのパラメータをFALSEに設定しますリポジトリメンバーを削除するにはこのパラメータをTRUEに設定しますデフォルト値は「true」です。このパラメータを使用しない場合、リポジトリメンバーは自動的に削除されます。

最小ファームウェアレベル

7.83

SNMPコミュニティの登録解除 - SANtricity CLI

「delete snmpcommunity」コマンドは、「create snmpcommunity」コマンドを使用して以前に作成および登録した既存の簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）コミュニティを削除します。SNMPコミュニティを削除すると、コミュニティの登録が解除されます。そのコミュニティに関連付けられているトラップの送信先も削除されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
delete snmpCommunity communityName="snmpCommunityName"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「CommunityName」の略	削除するSNMPコミュニティの名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符 ("") で囲みます。

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMPトラップ送信先の登録解除 - SANtricity CLI

「delete snmpTrapDestination」コマンドは、「create snmpTrapDestination」コマンドを使用して以前に作成および登録した、既存の簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)トラップの送信先を削除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
delete snmpTrapDestination trapReceiverIP=<em>ipAddress</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「trapReceiverIP」と入力します	トラップメッセージの送信を停止するSNMPマネージャのIPアドレス。

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMPv3 USM ユーザーの登録解除 - SANtricity CLI

「delete snmpUser username」コマンドを使用すると、以前に「create snmpUser」コマンドを使用して作成および登録した、既存の簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP) USMユーザが削除されます。SNMPユーザを削除すると、そのユーザの登録が解除されます。そのユーザに関連付けられているトラップの送信先も削除されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
delete snmpUser userName="snmpUserName" [engineId=(local | engineId)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ユーザ名」	削除するSNMP USMユーザの名前。SNMP USMユーザ名を二重引用符（""）で囲みます。
「engineID」	更新するSNMP USMユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定するには、「local」を使用します。ローカルSNMPエージェントは、権限のあるエージェントであるか、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定するための16進数値文字列です。

最小ファームウェアレベル

8.72

SSDキャッシュの削除 - SANtricity CLI

delete ssdCacheコマンドは、SSDキャッシュを削除します。SSDキャッシュ内のすべてのデータがページされます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

構文

```
delete ssdCache [<em>ssdCacheName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	削除するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ（[]）で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

ストレージアレイディレクトリサーバーの削除 - SANtricity CLI

delete storageArray directoryServersコマンドを使用すると、1つ以上のディレクトリサーバーを削除できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
delete storageArray (allDirectoryServers |
    directoryServers ["<em>domainId1</em>" ... "<em>domainIdN</em>"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allDirectoryServers」を参照してください	すべてのディレクトリサーバを削除できます。
「directoryServers」	削除するディレクトリサーバを、それぞれドメインIDで識別して、指定できます。  IDは角かっこ ([]) で囲みます。複数指定する場合は、それぞれスペースで区切ります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete storageArray directoryServers ["domain1"
"domain3"];"

SMcli -n Array1 -c "delete storageArray allDirectoryServers;"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40で、コマンドが追加されました。

インストールされた外部キー管理証明書を削除する - SANtricity CLI

delete storageArray keyManagementCertificateコマンドは、インストールされている外部キー管理証明書をストレージアレイから削除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
delete storageArray keyManagementCertificate  
certificateType=<em>certificate_type</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「certificateType」	削除する証明書のタイプを指定できます。有効な選択肢は「client」または「server」です。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete storageArray keyManagementCertificate  
certificateType="client";"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイのログインbannerを削除する - SANtricity CLI

`delete storageArray loginBanner`'コマンドを使用すると、以前にアップロードおよび保存されたログインバナー テキストファイルを削除できます

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
delete storageArray loginBanner
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.41

ストレージアレイのSyslog設定を削除する - SANtricity CLI

`DELETE storageArray syslog`'コマンドを使用すると、監査ログの保存に使用する指定されたsyslog設定を削除できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
delete storageArray syslog (allServers | id="")
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allServers」を参照してください	すべてのsyslog設定を削除します。
「id」	削除するsyslogサーバのID。このIDは、「show storageArray syslog」コマンドを使用して取得できます。

最小ファームウェアレベル

8.42

インストールされた信頼された CA 証明書を削除する - SANtricity CLI

delete storageArray trustedCertificate'コマンドは'指定されたユーザーがインストールしたCA証明書をアレイのWebサーバから削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
delete storageArray trustedCertificate [(allUserInstalled | aliases=("<em>alias1</em>" ... "<em>aliasN</em>"))]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allUserInstalled」	ユーザがインストールした証明書をすべて削除するように指定できます。

パラメータ	説明
「別名」	削除する1つ以上のCA証明書をエイリアス名を使用して指定するか、またはすべての証明書を指定できます。エイリアスは任意のコントローラから指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete storageArray trustedCertificate
allUserInstalled;"
```

```
SMcli -n Array1 -c "delete storageArray trustedCertificate
aliases=("19527b38-8d26-44e5-8c7f-5bf2ca9db7cf" "04bf744c-413a-49f1-
9666-88d74189591d");"
```

```
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

Syslogサーバーの削除 - SANtricity CLI

delete syslogコマンドは、1つ以上のサーバをsyslog設定から削除して、アラートを受信しないようにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
delete syslog (allServers | serverAddresses [<em>serverAddress1</em> ...
<em>serverAddressN</em>])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allServers」を参照してください	すべてのsyslogサーバを削除できます。
「serverAddresses」と入力します	syslogサーバを削除できます。サーバは角かっこ（[]）で囲みます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "delete syslog allServers;  
  
SMcli -n Array1 -c "delete syslog serverAddresses  
["serverName1.company.com"]";  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ディスクプールからボリュームを削除する - SANtricity CLI

delete volumeコマンドは、ディスク・プールから通常のボリュームまたはシン・ボリュームを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドを使用して、ボリュームに関連するスケジュールを削除することもできます。スケジュールを削除しても、ボリュームは削除されません。

ストレージアレイの設定に損傷の可能性--このコマンドを実行するとすぐに、ボリューム内のすべてのデータが失われます。

構文

```
delete (allVolumes |  
volume [volumeName] |  
volumes ["<em>volumeName1</em>" ... "<em>volumeNameN</em>"]  
[force=(TRUE | FALSE)]  
[schedule]  
[retainRepositoryMembers=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ディスクプール上のすべてのボリュームを削除します。
「volume」	削除する特定のボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「ボリューム」	削除する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none">すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。名前はそれぞれスペースで区切ります。
「フォース」	このパラメータを使用すると、コントローラで他の処理が実行されている場合でも、ボリュームの強制削除がすぐに実行されます。ボリュームの削除をすぐに強制的に実行するには、このパラメータを「true」に設定します。コントローラが他の操作を完了するまで待機するには、このパラメータを使用しないか、このパラメータをFALSEに設定します。
「スケジュール」	このパラメータは、特定のディスクプールボリュームに関連するスケジュールを削除します。スケジュールのみが削除され、ディスクプールボリュームは残ります。
retainRepositoryMembers	シンボリュームを削除すると、関連付けられているリポジトリボリュームもデフォルトで削除されます。ただし'retainRepositoryMembers'がtrueに設定されている場合、リポジトリ・ボリュームは保持されます通常のボリュームの場合、このパラメータは効果がありません。

注：

allVolumesパラメータを使用する場合'このコマンドは'すべてのボリュームが削除されるまで'またはエラーが発生するまで'ボリュームを削除しますエラーが発生した場合、このコマンドは残りのボリュームを削除しません。異なるボリュームグループからボリュームを削除できます。「removeVolumeGroup」パラメータを「true」に設定すると、空になったボリュームグループはすべて削除されます。

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームの削除 - SANtricity CLI

delete volumeコマンドは'1つまたは複数の標準ボリュームを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージアレイの設定に損傷の可能性--このコマンドを実行するとすぐに、ボリューム内のすべてのデータが失われます。



ボリュームのサイズが一定（現在は128TB）を超えた場合、削除はバックグラウンドで実行されており、解放されたスペースをすぐに使用できるとは限りません。

構文

```
delete (allVolumes) |
volume [volumeName] |
volumes [volumeName1 ... volumeNameN]
[removeVolumeGroup=(TRUE | FALSE)]
[force=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージアレイ内のすべてのボリュームを削除します。
「volume」	削除するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「ボリューム」	削除する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 名前はそれぞれスペースで区切ります。
'removeVolumeGroup'	ボリュームグループ内の最後のボリュームを削除しても、ボリュームグループは削除されません。スタンダロンのボリュームグループ（ボリュームが含まれていないもの）を使用することもできます。スタンダロン・ボリューム・グループを削除するには'このパラメータをTRUEに設定しますスタンダロン・ボリューム・グループを変更しない場合は'このパラメータをFALSEに設定します
「フォース」	このパラメータを使用すると、コントローラで他の処理が実行されている場合でも、ボリュームの強制削除がすぐに実行されます。ボリュームの削除をすぐに強制的に実行するには、このパラメータを「true」に設定します。コントローラが他の操作を完了するまで待機するには、このパラメータを使用しないか、このパラメータをFALSEに設定します。

注：

allVolumesパラメータを使用する場合'このコマンドは'すべてのボリュームが削除されるまで'またはエラーが発生するまで'ボリュームを削除しますエラーが発生した場合、このコマンドは残りのボリュームを削除しません。異なるボリュームグループからボリュームを削除できます。「removeVolumeGroup」パラメータを「true」に設定すると、空になったボリュームグループはすべて削除されます。

ボリューム・グループ全体を削除する場合は'delete volumeGroup'コマンドも使用できます

最小ファームウェアレベル

6.10

7.10で、「removeVolumeGroup」パラメータが追加されました。

ボリュームグループの削除 - SANtricity CLI

delete volumeGroupコマンドはボリューム・グループ全体とその関連ボリュームを削除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージアレイの設定に損傷の可能性--このコマンドを実行するとすぐに、ボリュームグループ内のすべてのデータが失われます。

構文

```
delete volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	削除するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

非同期ミラーグループの接続をテストする - SANtricity CLI

「diagnose asyncMirrorGroup」コマンドは、非同期ミラーグループに関連付けられているローカルストレージアレイとリモートストレージアレイ間の通信の問題をテストします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、一部制限付きで個々のストレージアレイを環境接続します。E2700またはE5600のアレイに対して実行する場合は、制限はありません。



このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のプラットフォームではサポートされていません。

ロール

該当なし

構文

```
diagnose asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>]  
testID=(all | connectivity | latency | bandwidth | portConnections)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	テストする既存の非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「testID」	<p>実行する診断テストの識別子。識別子とテストは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • * all *--このコマンドに関連するすべてのテストを実行します。 • 接続-- 2台のコントローラに通信パスがあることを確認します接続テストでは、ストレージアレイ間でコントローラ間メッセージを送信して、リモートストレージアレイに対応する非同期ミラーグループが存在するかどうかを検証します。また、非同期ミラーグループのリモートシステム上のボリュームメンバーがローカルシステム上のボリュームメンバーと一致していることを確認します。 • * Latency *--非同期ミラーグループのリモートストレージアレイ上の各ボリュームにSCSIテストユニットコマンドを送信して、最小、平均、最大のレイテンシをテストします。 • bandwidth-- 2つのコントローラ間メッセージをリモートストレージアレイに送信して、最小、平均、最大の帯域幅、およびテストを実行しているコントローラ上のポートのネゴシエートされたリンク速度をテストします。 • ポート接続--ローカルストレージアレイ上のミラーリングに使用されているポート'およびリモートストレージアレイ上のミラーデータを受信しているポートを表示します

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

コントローラのiSCSIホストケーブルの診断 - SANtricity CLI

「diagnose controller iscsiHostPort」コマンドは、iSCSIホストインターフェイスカードとコントローラの間の銅線ケーブル上で診断テストを実行します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされいれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに

は、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

選択したポートまたはすべてのポートで診断を実行できます。ポートはケーブル診断をサポートできる必要があります。ポートがケーブル診断をサポートしていない場合は、エラーが返されます。

構文

```
diagnose controller [(a|b)]  
iscsiHostPort ([all] | [portLabel])  
testID=cableDiagnostics
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ケーブル診断テストを実行するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。
「iscsiHostPort」のように入力します	診断テストを実行するiSCSIホストポート。すべてのiSCSIホストポート上で診断を実行するか、または特定のiSCSIホストポート上で診断を実行できます。 詳細については、次を参照してください。 "iSCSIホストポートラベルの識別"
「testID」	実行する診断テストの識別子。この診断テストで選択できるのは「cableDiagnostics」のみです。

iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」

の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort [\"ch 2\"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります（{キャレット} を使用）。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b'」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort [\"e0b^|0b\"]
```

下位互換性のために、引用符と角かっこではなく角かっこ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。

- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort [3]
```

注：

ケーブル診断テストを実行すると、ファームウェアから次の情報が返されます。

- ホストポート：診断テストを実行したポート。
- * HIC *：このポートに関連付けられているホストインターフェイスカード。
- テストが実行された日時。
- ステータス：
 - * OK *：すべてのケーブルペアが良好で、故障はありません。
 - * Open *：4つのケーブルペアのうち1つ以上が開いています。
 - ショート：4つのケーブルペアのうち1つ以上がショートしています。
 - 不完全：4つのペアのうち1つ以上が不完全または無効なテスト結果を返しました。
- 長さ：ケーブルの長さはメートル単位で表示され、ケーブルに関する次の情報が返されます。
 - ケーブルのステータスがOKの場合は、ケーブルペアのおおよその長さが返されます。ケーブルペアの長さが範囲（L1-L2）として表示されます。これは、ケーブルペアの最短、最長の長さです。
 - ケーブルのステータスがOpenまたはShortの場合は、ケーブルペアの障害箇所へのおおよその距離。

障害が1つの場合は、そのケーブルペアの長さが報告されます。障害が複数ある場合は、障害までの最短、最長の両方の長さに関する情報が返されます。長さは範囲 (L1-L2) として表示されます (L1<L2)。

- ケーブルのステータスがIncompleteの場合は、ファームウェアで正常にテストできる最短、最長のケーブルペアの長さに関する情報が返されます。長さは、有効なケーブルペアの範囲 (L1-L2) として表示されます (L1<L2)。

- ケーブル診断レジスタの値を登録します。値は16進形式です。

- 2バイトは複合ケーブルステータスを示します（ポートあたり4ビット）。

- 4つの2バイトの数字は、各チャネルの長さを示します。

最小ファームウェアレベル

7.77

8.10で、iSCSIホストポートの番号付け方法が改定されました。

コントローラの診断 - SANtricity CLI

「diagnose controller」コマンドは、コントローラ上で診断テストを実行します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

診断テストは、データがドライブに書き込まれ、ドライブから読み取られるループバックテストで構成されます。

構文

```
diagnose controller [(a| b)]
loopbackDriveChannel=(allchannels | (1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8))
testID=(1 | 2 | 3 | discreteLines)
[patternFile="filename"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	診断テストを実行するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。
「loopbackDriveChannel」のようなものです	診断テストを実行するドライブチャネル。すべてのチャネルで診断を実行するか、診断を実行する特定のチャネルを選択することができます。特定のチャネルを選択した場合、ドライブ・チャネルの有効な値は'1"2'3'4'5'です'6'7'または'8'
「testID」	実行する診断テストの識別子。識別子とテストは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • '1'--読み取りテスト • 2--書き込みテスト • 3--データのループバックテスト • 「discreteLines」 --個別回線診断テスト
「patternFile」のように指定します	テストデータとして使用するデータパターンが含まれているファイルパスとファイル名。データパターンのファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例： <pre>'file="C:\Program Files\CLI\sup\patfile.txt'</pre>

注：

データのループバックテストを実行するときは、データパターンを含むファイルをオプションで指定できます。ファイルを指定しない場合は、コントローラファームウェアによってデフォルトのパターンが指定されます。

個別回線は、コントローラトレイ内の2つのコントローラ間で接続されている制御回線とステータス回線です。個別回線診断テストでは、代替コントローラの制御入力で制御信号の遷移が観察できることをコントローラごとに確認できます。個別回線診断テストは、電源を再投入するたび、またはコントローラをリセットするたびに、自動的に実行されます。個別回線診断テストは、最初の個別回線診断テストに失敗したコンポーネントを交換したあとに実行できます。個別回線診断テストは、次のいずれかのメッセージを返します。

- 個別回線診断テストが正常に実行されると、次のメッセージが表示されます。

The controller discrete lines successfully passed the diagnostic test. No failures were detected.

- 個別回線診断テストが失敗した場合は、次のメッセージが表示されます。

One or more controller discrete lines failed the diagnostic test.

- CLIで個別回線診断テストを実行できない場合、CLIはエラー270を返します。これは、個別回線診断テストが開始も完了もできなかったことを意味します。

最小ファームウェアレベル

6.10で、読み取りテスト、書き込みテスト、データのループバックテストが追加されました。

6.14で、個別回線診断テストが追加されました。

7.30で、更新されたドライブチャネル識別子が追加されました。

同期ミラーリングの診断 - SANtricity CLI

SyncMirror コマンドは'同期ミラーリング機能が有効になっているストレージ・アレイ上の指定されたプライマリ・ボリュームとミラー・ボリュームの間の接続をテストします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
diagnose syncMirror (<em>primary [primaryVolumeName</em>] |primaries ["<em>primaryVolumeName1</em>" ... <em>"primaryVolumeNameN"</em>])  
testID=connectivity
```

パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	テストするリモートミラーペアのプライマリボリュームの名前。プライマリボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。プライマリボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、プライマリボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「原色」	<p>ボリューム名は複数入力できます。すべてのボリューム名は一組の角かっこ ([]) で囲みます。各ボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。ボリューム名はそれぞれスペースで区切ります。</p> <p>プライマリボリュームとして使用する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、プライマリボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。 各名前は二重引用符 ("") で囲みます。 名前はそれぞれスペースで区切ります。

最小ファームウェアレベル

6.10

外部セキュリティキー管理を無効にする - SANtricity CLI

disable storageArray externalKeyManagement fileコマンドは、Full Disk Encryption ドライブを持つストレージアレイの外部セキュリティキー管理を無効にします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```

disable storageArray externalKeyManagement
file="fileName"
passPhrase="passPhraseString"
saveFile=(TRUE | FALSE)

```

コンテキスト (Context)



このコマンドを使用すると、ドライブセキュリティの代替形式として内部キー管理を有効にできます。



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>内部セキュリティキーが格納されているファイルパスとファイル名。例：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <pre>file="C:\Program Files\CLI\sup\drivesecurity.slk"</pre> </div> <p> ファイル名の拡張子は「.slk」でなければなりません。</p>
パスフレーズ	セキュリティキーを外部ファイルに格納できるよう、セキュリティキーを暗号化する文字列。
「saveFile」を参照してください	セキュリティキーを検証してファイルに保存します。保存しない場合は'FALSE'に設定し'ファイルのセキュリティ・キーを確認しますデフォルト値は「true」です。

注：

パスフレーズは次の条件を満たしている必要があります。

- 8~32文字で指定する必要があります。
- 空白なし。
- 大文字を1つ以上含む。
- 小文字を1つ以上含む。
- 数字を1つ以上含む。

- 英数字以外の文字 (<>@+など) を少なくとも1文字含める必要があります。



パスフレーズがこれらの条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

最小ファームウェアレベル

8.40

8.70で'saveFile'パラメータが追加されました

ストレージアレイ機能を無効にする - **SANtricity CLI**

disable storageArrayコマンドはストレージ・アレイ機能を無効にします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

show storageArrayコマンドを実行して、ストレージアレイ内で有効になっているすべての機能の識別子のリストを表示します。

構文

```
disable storageArray (featurePack | feature=<em>featureAttributeList</em>)
```

pass: quotes [featureAttributeList]にはこれらの属性値の1つ以上を指定できます複数の属性値を入力する場合は、値をスペースで区切ります。

- 「ドライブセキュリティ」

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.20で'driveSecurity'属性が追加され、その他の属性がすべて削除されました

サーバー署名証明書のインストール - SANtricity CLI

download controller arrayManagementServerCertificateコマンドは、コントローラにサーバ証明書をインストールします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

コントローラに適用できる署名済み証明書を使用して、コントローラごとにこの操作を実行します。署名済み証明書にはコントローラのIP / DNS名が含まれている必要があります。

構文

```
download controller [ (a|b) ] arrayManagementServerCertificate  
file="filename"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	サーバの署名済み証明書をインストールするコントローラをユーザが指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。
'file'	署名済み証明書を含むファイルのパスとファイル名を指定できます。使用できる拡張子は、.cer、.crt、.derです。

例

```
SMcli -n Array1 -c "download controller [a]
arrayManagementServerCertificate
file="C:\serverSignedCertificateA.cer";"

SMcli -n Array1 -c "download controller [b]
arrayManagementServerCertificate
file="C:\serverSignedCertificateB.cer";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ルート/中間 CA 証明書のインストール - SANtricity CLI

download controller cacertificate'コマンドは、ルート/中間CA証明書をコントローラのWebサーバにインストールし、Webサーバの署名付き証明書を検証します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

この処理はコントローラごとに実行します。

構文

```
download controller[(a|b)] caCertificate [alias="string"]
file="filename"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間署名済み証明書をインストールするコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。
「alias」	ルート/中間証明書を表すエイリアスを指定できます。このエイリアスは、ルート/中間証明書に関する情報を検索する場合や、それらの証明書を削除する場合に使用されます。エイリアスはルート/中間証明書に関連付けられており、一意である必要があります。
'file'	ルート/中間CA証明書を含むファイルを指定できます。使用できる拡張子は、.pem、.cer、.crt、.derです。

例

```
SMcli -n Array1 -c "download controller[a] caCertificate alias="myAlias"
file="C:\rootCA1.cer";"
SMcli -n Array1 -c "download controller[b] caCertificate
file="C:\rootCA1.cer";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

信頼できる CA 証明書をインストールする - SANtricity CLI

download controller trustedCertificateコマンドは、コントローラのWebサーバに信頼されたCA証明書をインストールして、LDAPサーバの署名付き証明書を検証します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

この操作は、証明書に署名したCAの知名度が低い、または一般的に信頼されていない場合にのみ実行してください。コマンドは、両方のコントローラにCA証明書をインストールします。

構文

```
download storageArray trustedCertificate [alias=<em>string</em>]  
file=<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「alias」	信頼されたCA証明書を表すエイリアスを指定できます。このエイリアスは、信頼されたCA証明書に関する情報を検索する場合や、それらの証明書を削除する場合に使用されます。エイリアスは信頼された証明書に関連付けられており、一意である必要があります。
'file'	信頼されたCA証明書を含むファイルを指定できます。使用できる拡張子は、.pem、.cer、.crt、.derです。

例

```
SMcli -n Array1 -c "download storageArray trustedCertificate  
alias="myAlias"  
file="C:\rootCA1.cer";"  
SMcli -n Array1 -c "download storageArray trustedCertificate  
file="C:\rootCA1.cer";"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ドライブファームウェアのダウンロード - SANtricity CLI

download drive firmwareコマンドは'ファームウェア・イメージをドライブにダウンロードします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



ストレージ・アレイの構成に損傷の可能性--ドライブ・ファームウェアを誤ってダウンロードすると'ドライブが損傷したり'データ・アクセスが失われる可能性があります



「content」パラメータは廃止されました。代わりに'firmware'パラメータを使用します

このコマンドは、一度に1つのドライブモデルのみにファームウェアイメージをダウンロードするためのものです。スクリプトでこのコマンドを使用する場合は、このコマンドを1回だけ使用してください。このコマンドを複数回使用すると、処理が失敗する可能性があります。download storageArray driveFirmwareコマンドを使用すると、ストレージアレイ内のすべてのドライブにファームウェアイメージを一度にダウンロードできます。

構文

```
download (drive [trayID, [drawerID,] slotID] | drives  
[trayID1, [drawerID1,] slotID1 ... trayIDn, [drawerIDn,] slotIDn])  
[online|offline] firmware file="filename"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>
「online」または「offline」です	オンライン・ドライブ・ファームウェアのダウンロードを実行するには'ONLINEを選択し'それ以外の場合はOFFLINEを選択しますデフォルト値は「offline」です。
'file'	<p>ファームウェアイメージが含まれているファイルのファイルパスとファイル名。ファームウェアイメージのファイルパスとファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\dnld\drvfrm.dlp "</pre> <p>有効なファイル名の拡張子は「.dlp」です。</p>
「firmware」（ファームウェア）	コントローラファームウェアをダウンロードすることを示します。

注：

ドライブファームウェアをダウンロードする前に、次の予防措置を取ります。

- 「online」パラメータを使用している場合を除き、ファームウェア・イメージをダウンロードする前に、ストレージ・アレイに対するすべてのI/Oアクティビティを停止してください。'online'パラメータを指定せずに'download drive firmware'コマンドを実行すると'ダウンロードが完了するか失敗するまで'すべてのI/Oアクティビティがブロックされますただし'予防措置として'ドライブに影響する可能性のあるすべてのI/Oアクティビティが停止していることを確認してください
- ファームウェアイメージファイルにドライブトレイとの互換性があることを確認します選択したドライブトレイと互換性のないファームウェアイメージファイルをダウンロードすると、ドライブトレイが使用できなくなる可能性があります。

- ・ ドライブファームウェアのダウンロード中は、ストレージアレイの設定を変更しないでください。設定を変更しようとすると、原因でファームウェアのダウンロードが失敗し、選択したドライブが使用できなくなる可能性があります。
- ・ このコマンドを使用してオンラインのドライブファームウェア更新要求が発行された場合、コントローラは、新しいファームウェアのダウンロード先となるドライブのリストからRAID 0ボリュームグループドライブを削除します。個々のドライブの戻りステータスは' [理由を使用しない] に設定されます

ファームウェアをドライブにダウンロードするときは、システムに格納されているファームウェアイメージの完全パスとファイル名を指定する必要があります。

ストレージ・アレイ内のすべてのドライブにファームウェアをインストールする前に'download drive'コマンドを使用して1台のドライブ上でファームウェアをテストできますダウンロードでは、次のいずれかのステータスが返されます。

- ・ 成功しました
- ・ 理由で失敗しました
- ・ 理由がない

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子(ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

8.25で'online'パラメータが追加されました

ストレージアレイドライブファームウェアのダウンロード - SANtricity CLI

download storageArray driveFirmware fileコマンドは、ストレージアレイ内のすべてのドライブにファームウェアイメージをダウンロードします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
download storageArray driveFirmware file="filename"  
[file="filename2"... file="filenameN"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	ファームウェアイメージが含まれているファイルの ファイルパスとファイル名。ファームウェアイメー ジのファイルパスとファイル名は二重引用符（""）で 囲みます。例： file="C:\Program Files\CLI\dnld\scadrvfrm.dlp" 有効なファイル名の拡張子は「.dip」です。

注：

このコマンドを実行すると、ストレージアレイ内のドライブに複数のファームウェアイメージファイルをダウ
ンロードできます。ダウンロード可能なファームウェアイメージファイルの数は、ストレージアレイによって
異なります。ストレージアレイの許容数よりも多くのファームウェアイメージファイルをダウンロードしようと
すると、ストレージ管理ソフトウェアはエラーを返します。

冗長ボリュームグループ内の複数のドライブを含めて、複数のドライブのダウンロードを同時にスケジュール
できます。各ファームウェアイメージファイルには、ファームウェアイメージが実行されるドライブタイプに
に関する情報が含まれています。指定したファームウェアイメージは、互換性のあるドライブにのみダウンロード
できます。特定のドライブにファームウェア・イメージをダウンロードするには'download drive firmware'
コマンドを使用します

'download storageArray driveFirmware'コマンドは'各候補ドライブに対してダウンロードが試行されるか'を
'stop storageArray downloadDriveFirmware'コマンドを実行するまで'すべてのI/Oアクティビティをブロックしま
す'download storageArray driveFirmware'コマンドがファームウェアイメージのダウンロードを完了すると、
各候補ドライブは各ドライブのダウンロードステータスを表示します。次のいずれかのステータスが返されます。

- 成功しました
- 理由で失敗しました
- 理由がない

最小ファームウェアレベル

5.20

ストレージアレイファームウェア/NVSRAMのダウンロード - SANtricity CLI

download storageArray firmware'コマンドは、ファームウェアと、オプションでストレージアレイコントローラのNVSRAM値をダウンロードします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

NVSRAM値のみをダウンロードする場合は、「download storageArray NVSRAM」コマンドを使用します。

構文

```
download storageArray firmware [, NVSRAM ]
file=<em>filename</em> [, "<em>NVSRAM-filename</em>"]
[downgrade=(TRUE | FALSE)
activateNow=(TRUE | FALSE)
healthCheckM1Override=(TRUE | FALSE)
healthCheckNeedsAttnOverride=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
NVSRAM	このパラメータは、ファームウェアファイルをダウンロードするときに、NVSRAM値を含むファイルをダウンロードします。このパラメータには角かっこを含めないでください。'firmware'パラメータの後にカンマを含めます

パラメータ	説明
'file'	<p>このパラメータは、ファイルパスと、ファームウェアが含まれているファイル名を指定します。ファイルパスとファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\dnld\saferm.dlp "</pre> <p>有効なファイル名の拡張子は「.dlp」です。</p>
「NVS RAM ファイル名」	<p>このパラメータは、ファイルパスと、NVS RAM 値が含まれているファイル名を指定します。NVS RAM ファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例：</p> <pre>'file="C:\Program Files\CLI\dnld\saferm.dlp' 有効なファイル名には'.dlp'という拡張子が付いています</pre> <p>ファームウェアとNVS RAM の両方をダウンロードする場合は、ファイル名の前にカンマを含めます。</p>
「 downgrade 」	<p>ストレージアレイの設定に損傷の可能性-以前のバージョンのコントローラファームウェアまたはNVS RAM を誤ってダウンロードすると、コントローラが損傷したり、データアクセスが失われる可能性があります。このパラメータを使用する前に、テクニカルサポートにお問い合わせください。</p> <p>この設定を使用すると、以前のバージョンのファームウェアをロードできます。デフォルト値は'FALSE'です以前のバージョンのファームウェアをダウンロードする場合は'downgrade'パラメータをtrueに設定します</p> <p>NVS RAM のみをダウンロードする場合は、このパラメータは無効です。</p>
「 activateNow 」と入力します	<p>この設定により、ファームウェアイメージとNVS RAM イメージがアクティブになります。デフォルト値は「true」です。'activateNow'パラメータを'FALSE'に設定した場合は'activate storageArray firmware'コマンドを実行してファームウェアとNVS RAM をあとでアクティブにする必要があります</p> <p>NVS RAM のみをダウンロードする場合は、このパラメータは無効です。</p>

パラメータ	説明
「healthCheckMeliOverride」	<p>この設定は、メジャーイベントログ（MEL）の健全性チェックの結果より優先されます。MELの検証は引き続き行われ、バイパスされません。MELのチェックに失敗した場合は、コマンドの実行時にこのパラメータを使用することで、エラーをバイパスできます。</p> <p>ダウンロードの前に、コントローラがイベントログをチェックし、新しいコントローラファームウェアのダウンロードを妨げる可能性のあるイベントが発生したかどうかを確認します。そのようなイベントが発生した場合、コントローラは、通常は新しいファームウェアをダウンロードしません。</p> <p>このパラメータを指定すると、コントローラは新しいファームウェアを強制的にダウンロードします。デフォルト値は'FALSE'ですコントローラに新しいコントローラファームウェアを強制的にダウンロードさせる場合は、この値を「true」に設定します。</p>
「healthCheckNeedsAttnOverride」	<p>この設定は、特定の一連の要注意状態からの健全性チェックの結果を上書きします。特定の条件セットに対する要注意の検証が引き続き行われ、バイパスされません。Needs Attentionチェックに失敗した場合は、コマンドの実行時にこのパラメータを使用することで、エラーをバイパスできます。</p> <p>ダウンロードの前に、コントローラは特定の要注意状態をチェックし、新しいコントローラファームウェアのダウンロードを妨げる可能性のある障害が発生したかどうかを判断します。そのようなイベントが発生した場合、コントローラは、通常は新しいファームウェアをダウンロードしません。</p> <p>このパラメータを指定すると、コントローラは新しいファームウェアを強制的にダウンロードします。デフォルト値は'FALSE'ですコントローラに新しいコントローラファームウェアを強制的にダウンロードさせる場合は、この値を「true」に設定します。</p>

最小ファームウェアレベル

5.00

8.10で、「* healthCheckMeliOverride *」パラメータが追加されました。

8.70で'healthCheckNeedsAttnOverride'パラメータが追加されました。

ストレージアレイの外部キー管理証明書をインストールする - SANtricity CLI

download storageArray keyManagementCertificateコマンドは、外部キー管理証明書をストレージアレイにインストールします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
download storageArray keyManagementClientCertificate  
certificateType=(client|server) file="filename" [privateKeyFile =  
"keyFileName"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「certificateType」	証明書ファイルのタイプを指定できます。有効な選択肢は'client'または'server'です
'file'	クライアントの署名済み証明書またはサーバのルート/中間CA証明書を指定できます。ファイルはPEM / DER形式である必要があります。
privateKeyFile	署名済み証明書と一緒に秘密鍵をダウンロードできます。パラメータは privateKeyFile `value`とともに使用する必要があります `certificateType=client`。

例

```
SMcli -n Array1 -c "download storageArray keyManagementClientCertificate  
certificateType=client  
file="C:\serverSignedKeyMgmtClientCert.cer";"
```

```
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイNVSRAMのダウンロード - SANtricity CLI

download storageArray NVSRAMコマンドは、ストレージアレイコントローラのNVSRAM値をダウンロードします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
download storageArray NVSRAM file="filename"  
[healthCheckMclOverride=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	ファイルパスと、NVSRAM値が含まれているファイル名。NVSRAMファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例： file="C:\Program Files\CLI\dnld\afsm.dlp" 有効なファイル名の拡張子は「.dip」です。

パラメータ	説明
「healthCheckMELOverride」	<p>メジャーイベントログ（MEL）の健全性チェックの結果を無視する設定。MELの検証は引き続き行われ、バイパスされません。MELのチェックに失敗した場合は、コマンドの実行時にこのパラメータを使用することで、エラーをバイパスできます。</p> <p>ダウンロードの前に、コントローラがイベントログをチェックし、新しいNVS RAMのダウンロードを妨げる可能性のあるイベントが発生したかどうかを確認します。そのようなイベントが発生した場合、コントローラは、通常は新しいNVS RAMをダウンロードしません。</p> <p>このパラメータを指定すると、コントローラは新しいNVS RAMを強制的にダウンロードします。デフォルト値は'FALSE'ですコントローラに新しいNVS RAMを強制的にダウンロードさせる場合は'この値をTRUEに設定します</p>

最小ファームウェアレベル

6.10

8.10で、「healthCheckMELOverride」パラメータが追加されました。

ダウンロードトレイの構成設定 - SANtricity CLI

download tray configurationsettingsコマンドは'ストレージ・アレイ内のすべてのドライブ・トレイまたはストレージ・アレイ内の特定のドライブ・トレイに出荷時のデフォルト設定をダウンロードします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
download (allTrays | tray [<em>trayID</em>] configurationSettings  
file=<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allTrays」	このパラメータは、ストレージアレイ内のすべてのトレイに新しいファームウェアをダウンロードします。
「tray」	新しいファームウェアのロード先となるESMカードが含まれているドライブトレイ。トレイIDの値は'0 ~99ですトレイIDの値は角かっこ ([])で囲みます。
'file'	ファームウェアイメージが含まれているファイルのファイルパスとファイル名。ファームウェアイメージのファイルパスとファイル名は二重引用符 ("")で囲みます。例： file="C:\Program Files\CLI\dnld\trayset.dlp " 有効なファイル名の拡張子は「.dlp」です。

注：

trayパラメータは'工場出荷時のデフォルト設定を特定のドライブ・トレイにダウンロードします工場出荷時のデフォルトの設定を複数のドライブトレイにダウンロードする必要があるものの、すべてのドライブトレイではない場合は、各ドライブトレイでこのコマンドを入力する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.75

環境カードファームウェアのダウンロード - SANtricity CLI

download tray firmware fileコマンドは'ESM (環境サービスモジュール) ファームウェアをダウンロードします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



System Managerで管理されるデュプレックスシステム（E2800など）のコントローラでは、IOMの自動同期サービスが実行されています。このサービスは、IOMファームウェアを、コントローラにロードされているSANtricity OSバンドルに含まれるバージョンと自動的に同期します。IOMファームウェアがコントローラにロードされているバージョンにリバートされないようにするには、このサービスを無効にする必要があります。IOMの自動同期サービスは、System ManagerまたはREST APIを使用して中断できます。このサービスを中断しても、自動同期が有効なままの場合はIOMファームウェアが最新の状態に更新される点に注意してください。

構文

```
download (allTrays | tray [trayID])
firmware file=<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allTrays」	このパラメータは、ストレージアレイ内の互換性のあるすべてのトレイに新しいファームウェアをダウンロードします。選択するファームウェアパッケージによって、互換性のあるトレイが決まります。互換性のないトレイはスキップされます。互換性のないトレイに関するエラーメッセージは表示されません。
「tray」	新しいファームウェアのロード先となるESMカードが含まれているドライブトレイ。トレイIDの値は'0～99ですトレイIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。 トレイIDの先頭にゼロを補うことはできません。たとえば、表示されているトレイIDが「02」の場合、このコマンドでは、[02]ではなく[2]と指定する必要があります。
'file'	ファームウェアイメージが含まれているファイルのファイルパスとファイル名。ファームウェアイメージのファイルパスとファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例： <code>file="C:\Program Files\CLI\dnld\esmfrm.esm"</code> 有効なファイル名の拡張子は「.ESM」です。

注：

trayパラメータは特定のドライブ・トレイに新しいファームウェアをダウンロードします新しいファームウェアを複数のドライブトレイにダウンロードする必要があるものの、すべてのドライブトレイではない場合は、ドライブトレイごとにこのコマンドを入力する必要があります

最小ファームウェアレベル

5.20

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。